

園児へ、360度のメッセージ いわむらさんが壁画制作

小川智 2014年5月15日11時20分


印刷 | メール | スクラップ

紙面にプラス



【動画】東京・練馬区の幼稚園に絵本作家のいわむらかずおさんが壁画を描く＝小川智撮影



ドーム内に描かれた壁画。(右から) 緑がみずみずしい春、枝に雪が積もった冬、紅葉の秋=東京都練馬区大泉学園町3丁目 

里山で暮らすネズミの一家を描いた「14ひきシリーズ」などで知られる絵本作家のいわむらかずおさん(75)が初めて描き下ろした壁画が、東京都内の幼稚園で子どもたちの目を楽しませている。園舎のドーム内に360度描かれたのは大木や小鳥、ネズミたち。「自然に親しんで」との願いが込められている。

絵本作家いわむらかずおさんの壁画のパノラマ写真は[こちら](#) →



練馬区大泉学園町3丁目の「大泉小鳩(こぼと)幼稚園」の入り口は、ドーム形の吹き抜け(高さ8・5メートル)になっている。壁画はドーム内側の周囲25メートルを一巡りするように描かれている。

タイトルは「おおきな きの、はる なつ あき ふゆ」。1本の大きな木から枝が広がり、季節ごとにキジバトやヤマガラ、アカゲラなどの野鳥とともに、14ひきシリーズの主人公・ヒメネズミたちが描かれている。

同園は1966（昭和41）年創立。46年間使用した園舎を建て替えることになった。「子どもたちがわくわくするような空間にしたい」。園長の加藤栄一さん（66）の長女桂子さん（32）と次女優子さん（31）はそう考えた。同園の教諭でもある2人は昨年4月、子どもの頃から作品に親しんできた、いわむらさんに壁画の制作を頼んだ。

栃木県那珂川町 にアトリエを構えるいわむらさんは、下見のため工事中のドームを訪れた。登園した子どもたちが大きな木の中へ入っていくイメージが湧き上がり、引き受けることにした。アトリエや同県 益子町 の自宅の近くでよく見られるケヤキの大木をモチーフにした。

ヒメネズミたちを登場させたのは、桂子さんと優子さんのたつての願いだった。「ネズミたちは特別出演。小鳩幼稚園なので、キジバトもたくさん登場させました」

何度も描き直し、半年以上かけて仕上げた。原画を10倍の大きさに引き伸ばして印刷して壁面に貼り付け、今年1月に完成した。

いわむらさんは言う。「子どもの成長には『人間は色々な生き物と一緒に生きている』という実感を持つことがとても重要。壁画が、生き物と触れ合うきっかけになればうれしい」（小川智）